

# ラジオのギャップフィラーのイメージ

---

平成26年12月16日  
ギャップフィラー作業班

# ギャップファイラーの概要

- ギャップファイラーとは、山間部、地下街などの遮蔽空間やビル陰など、放送の受信が困難な地域（難視聴地域）において、小さな出力の電波により難視聴地域を解消する中継設備であり、放送事業者以外の者（市町村、ビルオーナー等）が設置することを可能とするもの。

（参考）地上デジタルテレビジョン放送のギャップファイラー（受信障害対策中継を行う放送局）の動向

- ・ 平成20年5月 地上デジタルテレビジョン放送のギャップファイラーの関係規定を整備（都市部のビル陰対策用を追加。また、技術基準適合証明を受けることで、簡易な免許手続が可能となり、無線従事者の配置が不要）
- ・ 平成26年11月末現在、全国で856局のギャップファイラーが使用されている（免許人として自治体が多い。）。

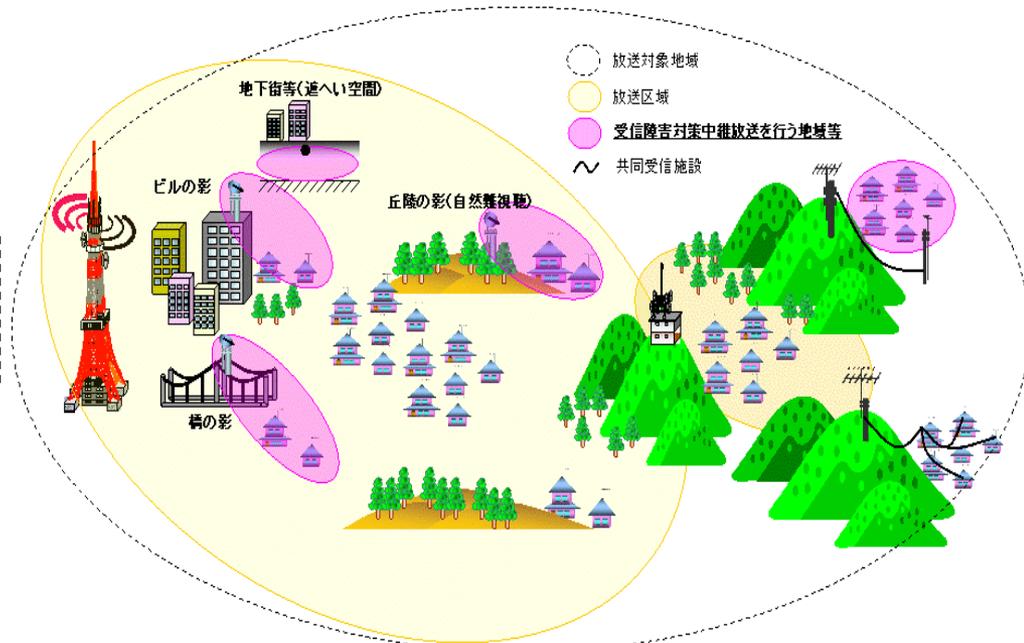


地上デジタルテレビジョン放送のみならず、AMラジオ放送においても、難聴地域が一定程度存在。

平成26年3月、都市型難聴対策、地理的・地形的難聴対策等を目的としたAMラジオ放送のFM補完局の制度整備を実施。



FMラジオ放送においても、リアス式海岸地域や山間地等において極小規模な難聴地域が一定程度存在しており、ラジオのギャップファイラーを用いた難聴解消が期待される。



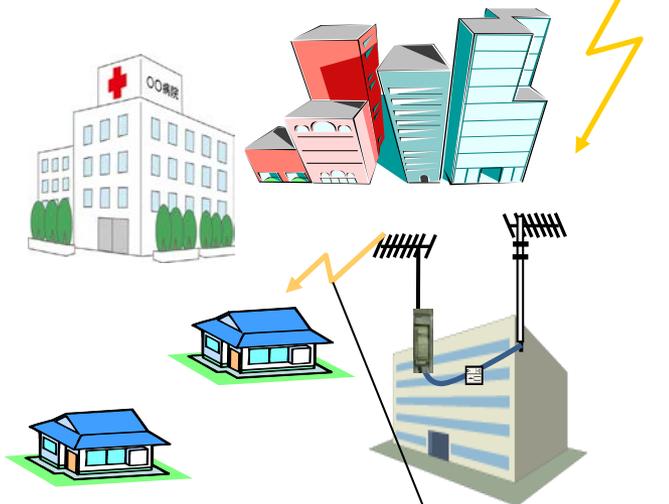
ギャップファイラーが使用される地域のイメージ

# ラジオギャップファイラーの難聴解消対策のイメージ

## ラジオのギャップファイラーの目的

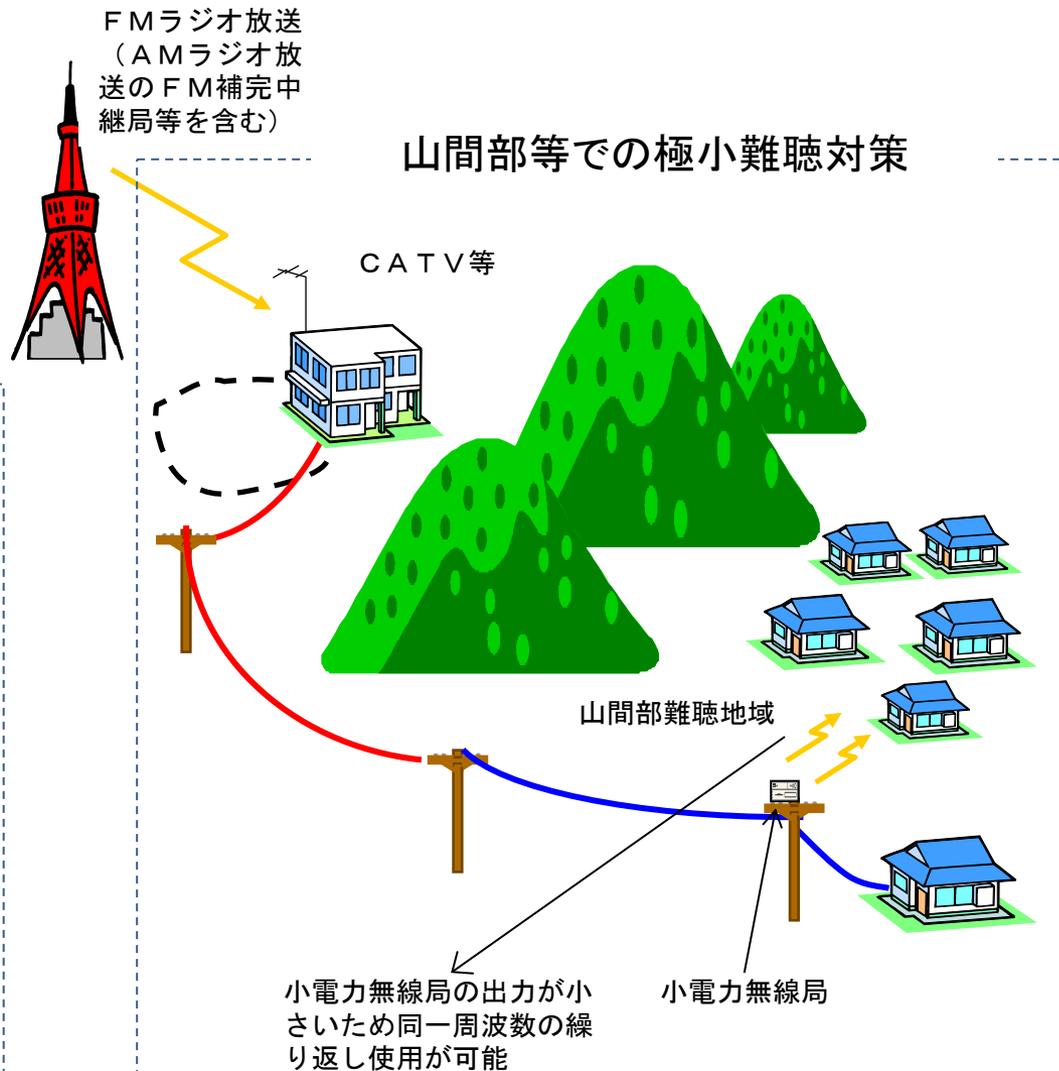
- ・都市部又は沿岸部、山間部等に散在する極小な難聴地域の解消のため再放送を行う

### 都市部、郊外、地下街での難聴対策



都市部難聴地域

小電力無線局の出力が小さいため同一周波数の繰り返し使用が可能



F Mラジオ放送  
(AMラジオ放送のFM補完中継局等を含む)

### 山間部等での極小難聴対策

CATV等

山間部難聴地域

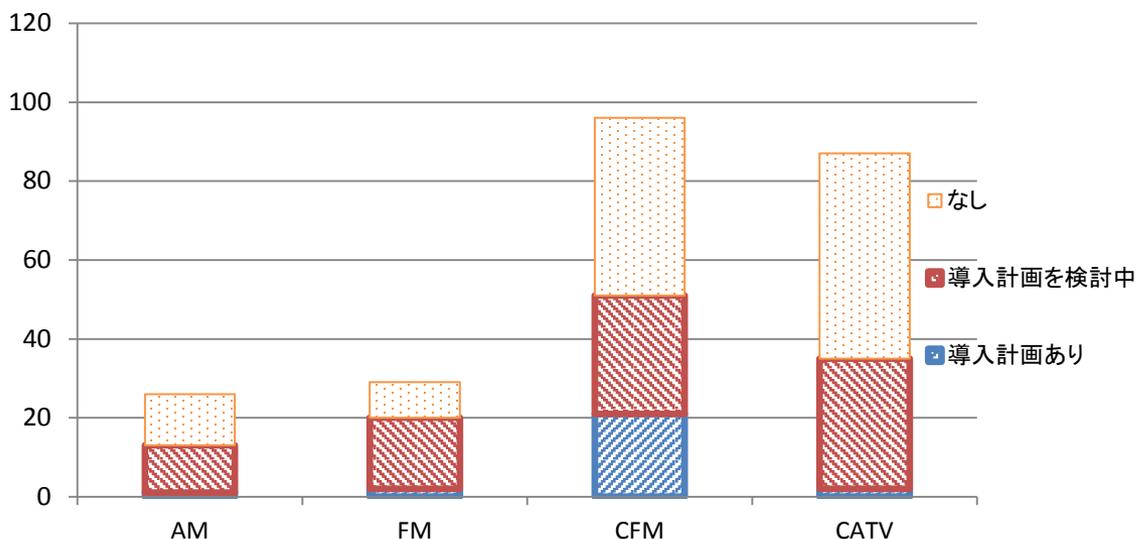
小電力無線局の出力が小さいため同一周波数の繰り返し使用が可能

小電力無線局

# ラジオのギャップファイラーの需要調査の結果

## ラジオのギャップファイラー

ラジオのギャップファイラーについては、コミュニティ放送（CFM）が最も多く51者あることがわかった。



計画	AM	FM	CFM	CATV	合計
導入計画あり	1	2	21	2	26
導入計画を検討中	12	18	30	33	93
なし	13	9	45	52	119
合計	26	29	96	87	238

(注) 平成26年10月16日から同年10月29日までの間、全国のAM放送事業者、FM放送事業者、CFM事業者、CATV事業者にアンケート調査を実施し、回答があった事業者(238者)を母数とする。